

● 経営研究事業報告 ●

藤井 聡 氏 講演会

～公共事業が日本を救う～



経営研究委員会 委員

(株)中筋組 大野 剛

日時 平成23年10月27日(木) 16:00

場所 広島市 ANAクラウンプラザホテル

公共事業＝「悪」というイメージが定着した昨今において「公共工事が日本を救う」の演題は非常に興味深い内容という事もあり、中国地方建設青年交流会主催の研修会に参加致しました。

私と同じ思いで参加された中国地方の青年部会員80名弱、又、発注者側からは中国地方整備局、各都道府県から30名弱と大変多くの参加者が集まり関心の高さが伺えました。

京都大学教授藤井聡講師の講演では公共事業における「国土政策論」・「経済論」について様々なデータを基に、私達にも簡単に理解できるよう貴重なお話をして頂きました。

「国土政策論」の中で、公共事業を不要と唱える専門家が出したデータが事実に基づいたものではないと話された事、先進諸国の中で我が国は道路延長や車線数といった道路の量・質とも最下位といった内容は、今までメディア等で報道された内容とは真逆で大変驚いてしまいました。又、東日本大震災を教訓に列島強靱化十年計画について話をされ、都市機能の分散、それに伴う交通インフラ整備、施設耐震などの公共事業を行うことにより、災害に強い日本を生み出せる事、それに私達は寄与している事に誇りを持つことが出来ました。

「経済論」では現在のデフレを脱却する為にも、国際競争力をもった港湾整備・高速道路ネットワーク・商業施設・工業地域周辺整備等、経済のパイを大きくする公共投資はこれから更に必要であると感じさせられました。

最後になりますが、この講演を通し建設業に携わっている事への「誇り」と「自信」を一



層持つ事が出来ました。1月25日の建設興業タイムスに藤井教授がアドバイザーをされている自民党の国土強靱化総合調査会による「国土強靱化基本法」の提案についての掲載がありました。これから先の10年間を国土強靱化への集中投資期間として、安全・安心につながる社会資本整備を進められるそうです。私達に勇気と希望を与えて下さった、藤井教授の益々のご活躍を期待致します。

● 経営研究事業報告 ●

「研修会」

工事検査での評価点 ～優良工事を取るためには～

経営研究委員会 副委員長
（株）内藤組 内藤 正和



日時 平成23年11月2日（水）16:00
場所 出雲建設会館

去る、平成23年11月2日（水）、午後4時から出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会主催による研修会を開催しました。この研修会に、当青年部会員より28名が出席致しました。

講師には出雲県土整備事務所の荒川技術専門監をお招きし「工事の評定及び留意事項について」の研修を受けました。研修内容は、総合評価方式の技術資料の作成や留意事項について分かりやすく説明していただきました。特に良いものを造るという共通の目的がありながら、結果として審査する側とされる側には温度差があることや、ポイントのずれについて具体的に説明頂いたことで、評価点のマイナスポイント等を良く理解する事が出来ました。また発注者側の考えを知る事ができ大変有意義な研修会となりました。

研修会終了後には、荒川技術専門監、竹田技術専門監にもご参加を頂いて意見交換会を開催しました。研修会とはまた違う雰囲気の中で、普段感じている疑問や質問、意見が多くあり、活発な意見交換会となりました。

現状の工事成績評定システムは国土交通省や地方自治体で法律によって、好むと好まざるに関係なく、公共工事は発注者側の担当者によって工事成績評定が実施されます。そしてその成績はその後の入札参加資格などにも大きく影響を与え、職種によっては高得点の取りやすい工事もあるのが現状です。もともと成績評定者の差がでない為のシステムではあります



研 修 会



意 見 交 換 会

が、やはり成績をつけるのは人間であり、個人差があると思います。この為、不当に低い成績評定を下される危険性があるのではとの意見もありました。受注者側としては、どのような対策をとるべきか考えますと、その工事の自己評定をして妥当な点数を把握することで、発注者側の点数と比べ、差がある場合は内容の公開を求めることで、不当に低い評定を避けることができると思います。そして自己評定を実施することで、評定点アップのノウハウ等が社内に蓄積され、ひいては次の受

注につながるのではないかと思います。また、総合評価方式については、発注者側は競争参加者の技術的能力の審査を適切に行って頂くとともに、品質の向上を図りつつも、過大な技術提案にならないものを評価されるよう受注者側の知恵や工夫をもっと活用して頂き、より良い総合評価方式の構築を目指していただきたいと思います。

今後は「工事成績評定点」の結果が発注者側・受注者側の双方にとって、ますます重要になっていくものと考えます。入札資格要件や技術力、品質確保のために講じられる各種評価制度と関連しつつ、受注者側も、従来の入札価格だけではなく、施工計画・施工実績・技術者能力・工事成績評定点など入札価格以外の項目も評価されることから、より一層の総合評価方式に対する認識を深めていく必要があると研修会を通して強く感じました。

最後になりますが、ご参加頂いた行政の方々をはじめ、会員の皆様方にはご協力並びにお世話になり、大変ありがとうございました。



荒川技術専門監を囲んで



竹田技術専門監を囲んで

● 親睦事業報告 ●

～ 研修視察旅行 ～



会員交流委員会 委員

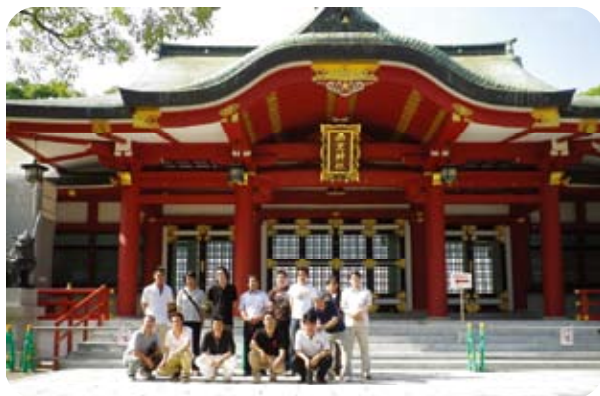
(株)三原組 三原 惇志

日時 平成23年6月23日(木)～25日(土)

場所 神戸・京都・大阪方面

初日は午前7時頃にバスにて協会を出発し神戸方面へと出発、高速道路無料化廃止後の事もあるのか、混雑する事もなく神戸の中華街へと到着し、昼食に中華料理を頂いた後に今回のメイン研修視察先である「科学と未来防災センター」へ行きました。この施設は「阪神・淡路大震災」のメモリアルとなっていて、建物の中は1F～5Fまであり、1Fは震災に関する勉強をする場所、2Fは防災・減災体験フロア、3Fは震災の記憶フロア、4Fは震災追体験フロア、5Fは防災学習フロアとなっており、大変充実した施設となっていました。迫力のある大画面での震災の映像やジオラマ模型でリアルに再現された被災後の町並みなどに、皆集中し静観しました。

施設の中の展示品は撮影禁止という事でここには載せる事が出来ませんが、マグニチュードの大きさを分かりやすく模型にしたものなどもありました。マグニチュードは1つ数字が上がる毎に32倍のエネルギーの違いがあるそうです。ちなみに平成12年に起きた鳥取西部大地震ではM約5でした。今回の東日本大震災ではM9でしたので、その差は約32,768倍の震災!? 凄まじいエネルギーだったという事です。……。



西宮神社にて



歩いて中華街へ

私たちの町、島根県はここ最近では大きな地震はありませんが、いざ震災がおきた時に対応出来るよう、日頃の心構えが必要だと感じました。

阪神・淡路大震災は3年計画にて復旧計画をしていたらしいですが、実際にはなにもな

い街を約1.5年で道路から建物から復旧されたようです。しかも震災前の神戸の夜景は100万ドルの夜景と言われていましたが、復旧後の夜景は1000万ドルの夜景だと言われています。10倍の輝きを増したという事なんですね。被災直後の映像と、改めて現在の神戸とを見比べると背筋が伸びる思いです。

翌日の京都、大阪は共に大きく賑わい、全員で懇親を深める事が出来ました。2泊3日という短い時間ではありましたが、会員相互の交流を深められた事で大変有意義な時間を過ごせたのではないのかなと思います。

神戸で感じた思いを糧に、今後にかし、「今出来るすべてに一生懸命がんばっていこう！」とおもいます。



若干お疲れ(?)の人も



展示品を熱心に見て回りました



川床料理を満喫



めっちゃ
飲みました